さきがけ
昭和63年（1988年）1月25日　月曜日

成功めざし総動員態勢

早くも関心を集める

ホーバークラフト

最先端のモータースポーツでむら興しを図ろうと仙北郡西仙北町が誘致に力を入れていた小型ホーバークラフトの第一回全日本競技選手権の開催が本決まりとなり、町も本格的な受け入れ態勢づくりに取り掛かっている。会場は同町刈和野の刈和野橋上流の雄物川と左岸の牧草地で、五百年の伝統を誇る大綱引きの行われる三月三日、全国からえりすぐりの三十艇が特設コースを疾走する。

ホーバークラフトは空気圧で浮上、推進する乗り物で、水陸両用、もちろん雪上走行もOK。大型のものは離島間などの交通機関として国内でも定期就航している。小型のものは近年、レジャー、スポーツ用として注目されている。

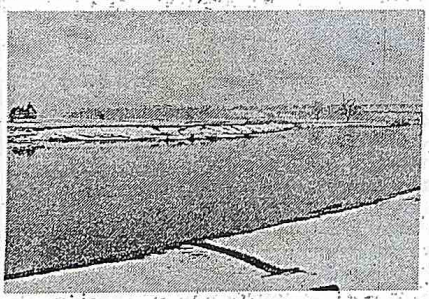
たまたま同町の町興し委員会メンバーが、この小型ホーバークラフトに着目。第一回全日本競技選手権を誘致し、将来的には生産工場、ライセンススクールなどの施設誘致までこぎつけようと昨年暮れ、町興し委員会有志らが中心になって全日本ホーバークラフト関連施設等誘致促進期成同盟会（佐藤好攻会長）を旗揚げ。雄物川で試走会を開くなどして一般の人たちの関心を高める一方、関係機関へ町ぐるみで働き掛けてきた。

全日本小型ホーバークラフト協会からは、昨年中に正式に同町での第一回大会開催の申し入れがあった。同町でもこれを受けて、受け入れ態勢づくりに着手。二十二日には臨時町議会を開き、大会補助金百四十五万円を計上した補正予算案を可決した。

町では二十七日、役場で大会実行委員会を開いて具体的な役割分担などの詰めに入る。大手企業の協賛なども交渉中だが、少ない予算での開催となるため、婦人会や商工会など各種団体を総動員しての手づくり大会とする方向だ。

国内には、大学や企業の研究機関、マニアなどがつくった小型ホーバークラフトが数百艇あるといわれているが、大会への参加は三十艇に限定。刈和野橋上流約五百㍍の右岸をスタートし、左岸の町有採草地を周回して戻る約三㌔のコースで速さを競う。ただ、積雪が一㍍以下の場合は、河川内だけのレースも検討している。

既に同町には、全国各地から問い合わせが来ており、実行委員会（町商工観光課内）でも前人気に驚いたり喜んだり。「大会を成功させて、この町を小型ホーバーのメッカにしたい」と張り切っている。



小型ホーバークラフトの第1回全日本選手権の会場となる雄物川

西仙北町　3月に全日本選手権開催

昭和63年（1988年）1月23日（土曜日）
日本経済新聞

みち

○…全日本小型ホーバークラフト協会（本部仙台市、岡本政司理事長）は三月三日に秋田県西仙北町で第一回の全日本小型ホーバークラフト競技選手権大会を開くが、全国から問い合わせ、資料請求が相次ぎ、関係者は予想外の反響の大きさに驚いている。

○…問い合わせは沖縄のレジャー関連企業や丸紅、日商岩井、ヤンマーディーゼル、横浜市役所など、北海道から沖縄まで広範囲で、同協会によると約四十件。また西仙北町や大会実行委員会にも三十－四十件の照会が来ているという。

○…いずれも小型ホーバークラフトの将来性に注目したもので、新しいレジャー、スポーツとして、ビジネス、地域振興の目玉にと狙っている。一方、西仙北町や大会実行委員会は大手企業や有力都市の参入は脅威としており、反響の大きさに喜び半分、警戒半分との態度をみせている。

秋田魁新報

No.52